



主な内容

演劇部 韓国へ！	柳本 博	(1)
母校 PASCH パートナー校に		(3)
同窓会、今年も獨協祭に参加、そして...	櫻田可人	(3)
戦中戦後のこどもと独逸学協会中学校	阿部龍男	(5)
個人情報保護法と同窓会名簿について		(7)
クラス会だより		(8)
私の近況		(12)
編集後記		(16)

<http://www.dokkyo-mejiro.com>

獨協同窓会 検索



題字・天野貞祐

第 73 号

平成 21 年 12 月 10 日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 鈴木 莊太郎

演劇部 韓国へ！



ラストのクライマックスシーン

演劇部顧問 柳本 博

演劇部は韓国ソウルに遠征してまいりました。キムチを食べに行ったワケではありません。獨協の芝居を見せに行ったのです。勝手に行ったワケではありません。韓国演劇協会からご招請をいただきました。日韓両国から一校ずつ代表を出し、プロの使う劇場で対決させようというイベント。費用には苦勞しました。それでも、同窓会の皆様

からもご寄付をいただき、渡航費の一部にあてさせていただきました。心より感謝しております。

さて、なぜウチの演劇部は韓国に行けたのでしょうか。よく聞かれます。イチローの話からまいりましょう。たまに私がそう切り出すと、何人かは「おや？」という顔になります。いえいえ、教師だからって、いつも受験の話ばかりではあり

ません。それは一浪。もちろん私が言いたいのはマリナーズのイチロー。メジャー新記録の9年連続200安打。素晴らしい。特に、彼がなしとげた「価値観の転換」がまた素晴らしい。そう思ってます。これまで、バッターを測る最大の基準は打率でした。3割、一流打者のあかし。そして夢の4割へ。しかしイチローはひたすらヒットの数に固執してきました。つまり、「割り算から足し算へ」好打者としての価値を転換させたのです。

大会では、高校演劇ですから「高校生的」「青少年的」「教訓的」な作品が求められます。しかしウチは一貫してそういった風潮にあらがう作品ばかり作ってきました。「面白い」「笑える」「カッコいい」。そればかりでした。この少年ジャンプみたいな三要素なくして、中高生の心をつかむことはできません。観客だけでなく、部員の、です。まず入部してもらえません。「真面目な」「テーマがしっかりしている」「ドラマとしてまとまっている」演劇からは遠ざかってきました。これは高校演劇の世界では異端です。ところが、人気だけはバツグン。本校の上演になると、特に女子高生が熱狂的に観客席に押し寄せる、それが定着してきました。私たちは(上位の)大会出場という結果よりも、いかにその場のお客さんを笑わせることができるかというプロセスや手段に重きを置くようになります。「手段のためには結果を選ばない」。逆のようですが、獨協演劇の真理です。もちろん、以前、沖縄全国大会に出場したときのような結果も欲しいのですが、それは二の次。まずは笑いを。そんな繰り返しの中、……パカラッパ



カラッ、おっ、遠くから、ひずめの音。ヒュン、スタッ。全国高校演劇協議会の名誉会長さんから推薦の白羽の矢が立ったというワケなのです。転換した価値がこんな指令を生みました。指令「韓国人を笑わせてこい」。

かくして2009年8月、ソウル市九老(クロ)区の九老アートバレエ芸術劇場で上演してまいりました。本校オリジナル作品『恐怖のズンドコ』。文化祭を盛り上げるために、プロレスを始める貧弱な肉体の男たちの話です。日本語上演でハングルの説明はパンフレットに少しあるだけ。それでも、韓国の女子高生を中心としたお客さんはとても好意的でした。カーテンコールでは大歓声に大拍手。場内の熱気をどうお伝えしましょう。まあ、5打数2安打1盗塁。猛打賞はかなわぬもののマルチヒットはかつ飛ばし、快速も披露したところでしょうか。DOKKYOの名を、大陸に刻みつけてまいりました。その確信は十分あります。皆様、ご支援、本当にありがとうございました。

ペアのヨンドゥンポ女子高校のみなさんと。韓国の子はあぐらをかくのです。



母校 PASCH パートナー校に

— 9月5日調印式が行われる —

ドイツ政府は外務大臣フランク・ヴァルター・シュタインマイヤーの主導により、2008 年より「学校:未来を開くパートナー」(PASCH:パッシュ)事業を展開しています。この事業は連邦外務省がコーディネーターとなり、諸外国にあるゲーテ・インスティトゥートなどが協力して各国の学校に働きかけドイツ語教育の普及を通じ国際交流の基盤作りをしようというものです。パートナーとなる学校は世界中で 1500 校が計画されていますが、わが国では 4 校が計画されています。そうした中で獨協中学・高等学校もその一校として認定され、9 月 5 日にその調印式が小講堂において挙行されました。式には永井伸一校長、ゲーテ・インスティトゥートの Dr. ウーヴェ・シュメルター所長のほか、成澤廣修(なりさわひろのぶ)文京区長、在日ドイツ大使館ハラルド・ゲーリック文化部長及び協賛のメルク株式会社のカール・レーザー社長らが列席し、在校生や関係者の見守る中、調印式が行われました。永井校長とシュメルター所長が協定書に調印、校舎入り口に掲げられる PASCH 認定校プレートが授与され、来賓の方々のご祝辞がありました。



来賓の方々や校長のお話の中では、明治時代に西欧文明を吸収するため設立されドイツ語教育に長年実績があったことが紹介されると共に、現校長の進めている環境教育がこの PASCH 協定でも重要なテーマとなっていることが紹介されました。そして、獨協が設立から 126 年後に PASCH パートナーとなったことの「歴史的な」意義が再確認され、今後の両国の交流、更には国際的な広がりをもつ国際貢献の可能性にも期待が寄せられていることも述べられました。

調印式後には、メルク株式会社のカール・レーザー社長による記念講演が開催され、同社の製品がわが国でも医薬品や工業製品として広く利用されていることを紹介されました。また、メルク社の代表的な製品のひとつである液晶ディスプレイなども展示され、多くの在校生が興味深げに見学していました。

式典、講演会の後は、本学のブラスバンド部の生徒たちがワーグナーの「ニュルンベルクのマイスタージンガー」などの演奏を披露し、調印式に花を添えました。



同窓会、今年も獨協祭に参加、そして…

獨協祭出展実行委員長 昭和 40 年卒 櫻田 可人

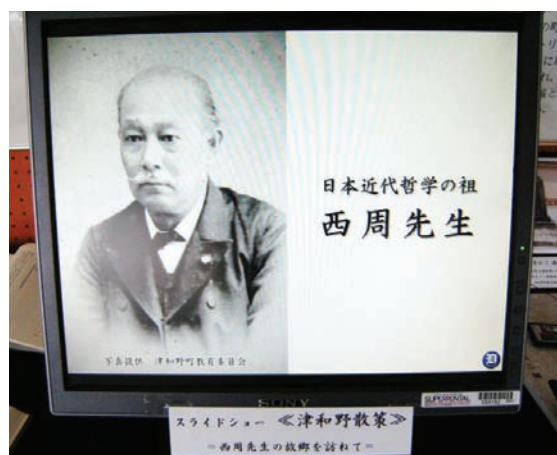
去る 10 月 3 日(土)・4 日(日)の両日、生徒の手による一大イベント・獨協祭が開催されました。当会は、同窓会活動の一環として、在校生・PTAそして来年再来年と受験するであろう小学生とその保護者の方々へ、獨協の歴史を紹介すべく昨年に引き続いて第二回目の参加をすることができました。

今回のテーマは、①初代校長「西周」先生に焦点を置き、②我が校の創設に携わった人々の略歴とその人々がドイツ留学時代にどのように関わり合ったのか、そして③獨協教育精神がどのような経路で培われて来たのか、という 3 大テーマを取り上げ、展示出展いたしました。また、昨年と同様に来場者の憩いのスペースとして「茶話コー

ナー」を設け、「同窓会オリジナル・グッズ」の展示即売も行いました。

昨年の獨協祭終了後、今回の出展内容を企画立案いたしました折、西周先生を育てた「津和野」そして創設者所縁の地「萩」をこの目で確かめる必要性を感じ、今年の5月15日～17日に、金副会長・竹内編集長・中村幹事長そして櫻田の4名にて8割自己負担の取材旅行に行っておりましました。15日に津和野そして16日～17日に萩を訪問し、展示資料となる多くの記録を手中にすることができました。その折、中村幹事長が事前に津和野町教育委員会・米本係長とコンタクトを取っておりましましたので、貴重なお話を伺うことができ、後日に資料提供のお約束までいただきました。これらを基に、掲示パネル・資料写真（人物を含む）・マップ・スライドショーなどの編集、展示物としての書籍選びなどを6月から9月初旬まで費やし、獨協祭開催3日前に形にすることができました。

出展内容として昨年と異とするところは、取材旅行で記録した関係事項を、マップ上に写真表示した点とP C画面上にスライドショーとしてエンドレス展開した点です。また、昨年は獨協学園資料センターより提供いただいた小冊子「獨協の歴



史」をご来場者に配布することができましたが、今年はそれに見合うものがなく、同窓会独自に小冊子「獨協の歴史Ⅰ “君は西周先生を知っているか？”」を作成して配布いたしました。更には、永井校長のご支持を得てこれを生徒全員へ配布したことも、昨年とは一味違う獨協祭参加になった点だと思います。

昨年度の二日間延べ来場者数は約250名でした。今年は、昨年と同様に、ご高齢にも拘らず遠方よりご来場いただいた大先輩、かつて教鞭を取られていた諸先生方、平成卒業の若き同朋を含む同窓生の面々、在校生諸君とP T Aの方々、受験生とその保護者の方々、更には取引業者やご近所の町会の方々や他校生、そして永井校長をはじめとする教職員の方々など、約350名を超す反響をみることができました。

来場者数のトップが在校生、その次がP T Aの方々というのは容易に想像されることと思いますが、特記すべきこととして、学校説明会場に來られた多くの受験生とその保護者の方々にご来場いただいたことが挙げられます。「獨協の歴史はすごいですね。」「必ず受験させます。」などのうれしい声をよく耳にしたということは、同窓会が学校説明会のバックアップに繋がったものと確信いたしました。またP T Aの方々からも、「息子を



この学校に入れて良かったです。」「改めて獨協の偉大さを肌で感じることができました。」など、我々同窓生を感動させる多くのお言葉を頂戴いたしました。今年のアンケートは40%の回収率となり、「天野先生を恒常的に取り上げては…」「歴代の校長先生だけではなく、教頭先生も…」などの他、今後の活動に大変貴重な多くのご意見をいただきました。多くのご要望・ご意見を頂戴いたしましたことは、同窓会の出展意義を認めていただけたのではないかという思いと共に、今後の同窓会活動への期待の裏付けではないかと、同窓会役員として改めて気の引き締まる思いを抱いた次第です。

最後に…、ご来場下さった多くの方々への感謝と共に、会場を提供して下さった獨協中・高の獨協祭実行委員会の皆さん、貴重な資料を提供して

下さった津和野町教育委員会・米本係長と齊藤主任、津和野町観光協会・萩市観光協会の方々、まんが「あまねくん」を提供して下さった(株)画屋・小川社長、獨協学園資料センター・中村女史、獨協大学同窓会・吉原女史、多くのアドバイスと共にこの出展に導いて下さった(株)王文社・鈴木社長に心より感謝申し上げます。また、以前教鞭を取られていた新宮譲治先生には著書「獨逸学協会学校の研究」をご提供いただき、展示スペースを充実することにお力添えをいただきましたことに深く感謝申し上げます。そして、桑嶋先輩、副会長・金先生、中村幹事長、竹内編集長、鈴木・神谷・渡辺・三名の常任幹事、事務局・大蔵さん、竹森君（今年度卒）には展示の準備・片付けにご尽力をいただきましたこと、誠に感謝に堪えません。

ご協力いただいたすべての方々へ…感謝・感謝。

戦中戦後のこどもと独逸学協会中学校

昭和23年卒 阿部 龍男

私はこの5月に満81歳を迎えましたので、獨協中学在学時代を中心として少しく過去を振り返ってみたいと思います。私は小学校2年の終り頃、脊椎カリエスと言う背骨の一部が結核菌に侵される病気にかかりました。1年休学したのち、胴体にギブスを数年間はめて暮しました。そのような訳で旧制の獨協中学入学に際しては、特に過激な運動は避けて修学するよう認めて頂きました。入学時の体力テストの幅跳びでは最下位に終り、見学の父母たちから失笑を買いました。

さて、入学の前年の昭和16年12月8日、出身の市ヶ谷小学校から明治神宮へ各自が清書した教育勅語の奉納があり、行列を作って小学校から神宮まで往復しました。神宮では神主さんから日米開戦の話を書きましたが良く意味が判らず、帰宅して新聞を見たりラジオを聞いたりしてから真珠湾攻撃の重大さを少し理解してきました。

日米開戦の翌年春に獨協中学に入学しましたが、当時中学校では武道が必須科目で、剣道、柔道、弓道がありました。過激な運動の出来ない私は弓道部に所属しました。当時獨協中学には立派な弓道場があり、習い初めは固く束ねた俵に向かって2米位離れた位置から矢を放つ練習をしました。やがて矢を放つ型が出来ると正面の的場的に向って矢を放射する練習をしました。弓の太さはその人の肩と腕の力に合わせて太くなりますが、当然太い弓ほど正確になる訳です。私が使った弓は道場にある中で一番細いものだったように思います。その後多少身体を使い力も強くなっているの

で、今ならもう少し強い弓が引けるかなとも思っています。話しはとびますが、25年程経ち勤務先の研修で伊東温泉に泊った際、海岸の矢場で久し振りに弓を引いてみたのですが、お店の人から「あなたは何派（何流）でお習いですか？」と聞かれました。中学の弓道の先生が何派の先生だったか私は聞き忘れていました。

自宅からの通学は交通機関は使わずに、牛込柳町から都電停留場のあった鶴巻町へと向う道を直進し、江戸川公園の中を通り、関口台町への崖の急階段を上って小学校の脇から獨協中学へ向いました。思い出すのは、通学途中に一緒になった市ヶ谷小学校からの級友H君（故人）に私の弱みが蛾だと何気なく教えたところ、彼がとっさに蛾をつかまえて私に押しつけてきました。夢中で崖の急階段を逃げ昇ったのでした。

中学時代のことは余り覚えていないのですが、三学年になると軍事教練がより実践的になり、ほふく訓練がありました。訓練中体調の異変に気づき、翌日近くの診療所へ行って検査を受けたところ、肺結核と分かり、1年間休学静養することになりました。昭和19年春のことでした。この年は極力療養に努め翌20年春には一学年遅れの3年生として復学することが出来ました。復学はしたものの、多くの学生達は戦時下の学徒勤労動員で軍需工場等へ動員されていて学校にはおりません。私一人学校の事務室へ赴き、事務の手伝いなどをさせてもらっておりました。復学する少し前の3月10日は東京大空襲があり、下町方面は壊

滅に瀕したのです。私の住んでいた牛込地区からは、夜間、東北方面にかけて一面に火の手が上っているのが望見されました。

5月25日には焼け残った山手地区を目標とした空襲がありました。その前年には強制疎開といって、空襲での延焼を防ぐ手段として带状に家屋の取壊しがありました。私の家も軽戦車に引っぱられた鉄のロープで無残にひき倒されたのです。幸い私の家ではすぐ近くの庭の広い空き家に転居することが出来ました。取壊された家の廃材を利用して父が天がい付きの立派な防空壕を数日かけて作ってくれました。降りしきる焼夷弾がとぎれるまで、一家と隣人が壕にひそんでいましたが、あちこちで火の手が上り、このままではむしろ焼きになるので逃げるに如かずと壕をとび出しました。アッと言う間に父と姉一家達と離れねばなり、母と弟と私の三人組が火の中をくぐって大通りへと逃げました。いつも通学で使う道を逆方向の牛込柳町へと向い、更に牛込北町方面へと裏通りを逃げ、府立四中の跡へとたどりつきました。ここには大きな防火用水があり水がたたえられていました。周囲に火の手が上り、熱風にあおられて焼けトタンが幾つも飛んできました。

私は用水池を何段か降り、バケツに水を汲み、母や弟にほてった身体をさますようバケツを渡してやりました。勿論私もシャツの上から水をかぶりしました。上へあがろうとすると年の頃15、6歳の目のパッチリした娘さんから「私も！」と言ってバケツを差出されました。ヨシャ！とばかり私は何段か下へ降りて水を汲み渡してやりました。

翌朝、私達3人は市ヶ谷小学校に非難していた父や姉夫婦達と一緒に出来ました。

私の家は丸焼けとなっていました。幸い近くの被害に合わなかった知人の家に仮ぐう出来ました。その方の父親が大工の腕があり、強制疎開で解体された資材を利用し、四帖半に土間のある小屋を建ててくれました。屋根は勿論焼けトタンを葺きました。

獨協中学へはそんな中で通いました。事務室の中で、奥田軍事教官に今回の山手大空襲の体験談として、鳥小屋の中で2羽の鶏が黒こげになっていたが、ほど良く肉が焼けていて美味しかったことなどを報告しました。

8月6日に広島、同9日に長崎に原爆が落とされました。新聞には「卑劣にも新型爆弾が使われた」と記載されておりましたが、理化学研究所に努めておりました義兄の説明で、そんな生やさしいものではなく、化学反応とは全く異質の爆発だということでした。（陸軍では原爆の研究を秘密裏に理研に委嘱していたとのこと）

広島、長崎の空襲以来、次の目標は都心以外に

はないと私は信じ、空襲警報が鳴る毎に父の作ってくれた地下壕で息をひそめるのです。本当に寿命の縮まる一週間でした。編隊で来襲する米機より、広島、長崎のときのように1機2機で偵察に来る敵機に肝を冷しました。

8月15日、天皇陛下の玉音放送があり、我が家の焼け残ったラジオの前に近所の人達が集まりました。録音は雑音が多く、ところどころ聞き難い箇所がありましたが、どうやら「堪え難きを堪え、忍び難きを忍んで」ポツダム宣言を受諾した——と理解されました。皆んな涙を流して泣きました。くやし涙だったのでしょうか？私は原爆を東京に落されず命を永らえた嬉し泣きでした。戦争が終り、秋の新学期からやっと授業が始まりました。当然私は入学時のクラスではなく、1年おくれのクラスでした。

ところで終戦直後の当時、私の家の周囲は殆ど焼け野原でした。山形県出身の父はせっせと焼跡の焼け瓦や焼け壁を片付け、跡を耕して野菜作りに精を出しました。私も土日にはそんな父の手伝いをしました。そのうち、野菜作りだけでは物足りなくなった私は、鶏の雛を買ってきて育てて親鳥とし、卵を生ませるようになりました。10羽20羽と増やし、父が立派な鶏小屋を建ててくれました。最多時は50羽程を育てました。当時鶏卵は貴重な栄養源で1個13円位していて小売店へも卸しました。

私は4学年の終りに第一早稲田高等学院と都立大学予科を小手調べで受験しましたがどちらも落ちてしまいました。5年の際は背水の陣で、第一と第二早稲田高等学院、同大学専門部及びその他の大学の予科数ヶ所を受験し、全部合格出来ました。第一早稲田高等学院に入学した私は、1年後に新制度の早稲田大学へ進みました。（アメリカ式教育制度導入で大学卒業までの年数が1年短縮）

従って卒業時は旧制大学卒業生と新制大学卒業生（私達）の卒業が一緒になり大変な就職難でした。私は在学中に無事に地元の信用金庫に就職出来ました（人手不足のため、卒業前から即就業）。就職後停年まで勤め退職しました。片手間に今と言うサラ金のようなものをやっていた母が、多くのサラリーマンの生きざまを見て「会社に入ったら停年まで止めるのじゃあないよ！」と言うのが口ぐせだったのを忠実に守ったわけでした。

在職中、30歳の頃、肺結核が再発し、三鷹の結核専門病院へ入院しました。レントゲンでハッキリ肺にボチボチが現れる粟粒（ゾクリュウ）結核（末期）で従来はとても助からない病状でした。集中治療室に1週間入っていましたが、幸運にもストレプトマイシン（ストマイ）が一般化し普及され出したばかりで、肺全般に拡っていたつづつ

ぶが、1週間後にすっかり消えてしまっていました。

この1週間後の院長巡回の際は、巡回の一同の方々が葉のききめの良さに黙ってうなずき合うばかりでした。私は入院直後、高熱にうなされながら、俺もそろそろ年貢の収め時が来たなと覚悟を決めていたところでした。

40歳位の時、前記市ヶ谷小学校当時の級友のH君が宅地建物取引主任者試験に合格しているのに刺激され、私も同試験を受験してみました。見事に試験に落ちました。翌年少し勉強して母校の試験場で受験し、やっと合格しました。停年退職後、新京成線（津田沼より松戸へ向う私鉄）の某駅近くの以前から入手していた店舗で、何か開業しようとしていましたが結局資格のある不動産業を始めて今日に至っております。これもH君のお陰と感謝しております。

ところで45歳の頃、昔のことが忘れられず、

デパートの屋上で桂（かつら）チャボのひな、雄1羽と雌2羽を買ってきて、狭い我が家の庭で育てました。やがて雌は卵を生むようになり、またそのうちの1羽が卵を暖め始めました。物置きの奥から昔使った鶏の保育用木箱を取出しその1羽を箱の中に入れてやりました。無事8羽程のヒヨコが生まれました。しかし3羽だけでもうさかったのに、全部がおとなになったら狭い庭でどうしょう。隣家の兄嫁が見かねて実家の近くの農家のかたに全部引き取ってもらってくれました。

現在、二人の我が家の娘が結婚し、無事それぞれ二人の子を育て上げてくれたのは、チャボを見習ってくれたお陰と自負している次第です。以上。

なお、このつたない回顧録は獨協中学4年後輩の弟の誠から原稿を依頼されたものです。「戦時中の頃の事など」阿部 誠の文章として獨協通信第70号に掲載しております。編集部

個人情報保護法と同窓会名簿について

獨協同窓会

個人情報保護法が施行され、同窓会においてもその名簿の管理については法の適用を受けるとの判断から、同窓会名簿の発行について獨協通信72号の送付にあわせて同窓会会員にアンケートを実施しました。同窓会ではこのアンケート結果も踏まえて総務会にて慎重に検討を行ってききましたが、このほど基本的な考えがまとまりましたので以下のとおりご報告致します。

1. 名簿の新規作成、発行について

獨協同窓会は、個人情報保護法の第2条の定義による個人情報取扱事業者に当たり、法の主旨に従った同窓会名簿の管理が求められ、会員への配布についても法の第23条「第三者提供の制限」の遵守が求められています。そこでは、「あらかじめ本人の同意なく個人情報を第三者に提供してはならない。」と規定されています。

獨協同窓会名簿には、個人名および住所、卒業年度などの記載があり個人情報にあたり、名簿に掲載されている個人の同意が無いまに、第三者への提供ができません。このため、同窓会では会員11500名に対しアンケートを実施、9月18日現在 1932通の回答が寄せられ、名簿に情報掲載を承諾された方1366名、名前のみ承諾された方436名、一切の情報の掲載を断られた方130名でした。この結果名簿を新規作成した場合会員総数の10%程度の情報しか掲載できず、名簿の機能が果たせないことが判りました。また、

獨協学園および姉妹校、さらに他校においても数年前から名簿発行を取りやめているという事実を勘案し、同窓会名簿の配布は行わないことになりました。

2. 会員のデータ管理について

同窓会員の個人情報は、同窓会活動においてきわめて重要なもので、「獨協通信」の送付、会員への連絡などに不可欠でありますので、事務局では、法の主旨に則りこれまで以上に慎重に管理していくこととなります。また、これまでに発行された「獨協同窓会名簿」についても必要最小限を残し適切に廃棄することといたしました。

3. 会員の情報提供について

会員の個人情報について会員の求めがある場合は必要最小限の範囲で提供することは、クラス会、クラブのOB会などの連絡などに必要ですので、年度幹事または常任幹事などに確認の上、提供することとしました。会員の情報が必要な方は、同窓会事務局にご連絡いただければと考えています。

何かと手続きが面倒になりますが、なにとぞ基本方針の主旨をご理解の上、ご協力のほどお願い申し上げます。

ご不明の点は同窓会事務局にファックス、メールにてお問い合わせ下さい。また事務局への電話でのご連絡は、開局時間内（水曜日の午後0時30分～4時まで）にお願いいたします。

昭和 20 年卒 5 卒ドイツ語 芽城会クラス会

安政 6 年、横浜から未来への夢を抱きつつ船出を始めて 150 年。その祝賀に沸く横浜に会場を得た。ところは、その昔弦歌さんざめく中で幕末の有為転変を見続けてきたであろう料亭「田中屋」である。往時は神奈川宿と呼ばれ湊を見下ろす宿場町であった。不運の志士坂本龍馬の妻「おりょうさん」が、一時この店に身を寄せていた記録もある。私たちの青春には海外へ雄飛する夢は与えられず、海外へ出るということは、「死に向かって歩み出す」に等しい時代であった。そしてこの日、5 月 10 日老いたる同級生 22 名が名うての老舗に集ったのである。20 年 5 卒ドイツ語科で現在把握している物故者は 61 名、宿病と共存する者 8 割に及ぶ。「後期高齢者、老々介護」などという新語は、昔、日常的に使った「チンパ、ビッコ、ツンボ」などより余程冷酷で、情けの欠けらも感じられぬ無機質な不適切語であろう。加えて血腥いニュースに事欠かぬ日は無く、まことに居心地の悪い国になってしまったが、さりとて自爆もならず輾転反側を繰り返す日々である。教練、体力検定、飛行場の造成、勤労働員、軍籍への旅立ち等々、過酷な環境で学び語り合い、ふざけ合った仲間達は殊更に懐かしい。そしてその器であった獨逸学協会中学校は、先祖伝来潰け込み続けた「タレ」のような存在である。「また来年な」と黄昏のような声を交しながら街へ散っていった。（畦森公望・記）



昭和 23 年 24 年卒 獨協十八会

平成 21 年 5 月 16 日（土）第 28 回の会合を目白椿山荘で正午より行いました。参加者は 9 名でした。昭和 56 年に 38 名で発足しましたこの会の運営の仕方を変えて集うことにしましたが、友が次第に減少することは淋しいことと感じます。（井原忠人・記）



2009 花の二七会

平成 21 年 9 月 26 日（土）午後 5 時より、飯田橋「トリノ」にてクラス会を開催した。当日は、恩師大久間先生にもご臨席頂き、総勢 14 名で楽しいひと時を過ごした。大久間先生は 91 歳というご高齢にもかかわらず、驚くほどお元気で賑やかに往時のこと、近況報告など盛り上がった。同級生も一人欠け二人欠け寂しい限りではあるが、これからもここ「トリノ」での再会を約して、散会となった。（幹事・記）



昭和 31 年度 ドイツ語クラス会

31 年卒ドイツ語クラスの同級会を 4 月 1 日銀座獨協倶楽部にて開催。桜の花も 7 分咲き、寒くも暑くもない絶好の季節。出席率 8 割のまよりの良さで始まった会は、昨年 4 月に他界した矢沢正義君に全員で黙とうを捧げた後始まった。石原氏の「太陽の季節」の受賞、フルシチョフのスターリン批判。といった時代に卒業した頃に一時話題が盛り上がり、その後、萩原優光君のみんなしっかりドイツ語を勉強している？と老人会の星！の冗談もものかわ、ベートーベンの第九をモチーフにドイツ語のレクチャー。自称青年のみかた田寺尚和君も負けじと「野ばら」をドイツ語で歌い、親子三代獨協卒が自慢の芦屋市在住の小野史雄君のリードで獨協校歌を一同で歌わせら

クラス会だより

れ、そんな思い出のひと時を共有した楽しい時間もまたたく間に過ぎ、また来年の春に再会しましょうを合言葉に閉会しました。（幹事・記）



2009 年度 古川 38 会報告

本年も6月28日（日）12：00より古川38会を4年連続で開催いたしました。会場は新宿にありますドイツ人オーナーシェフ、カイトル氏の経営する「KEITEL」にて、古川先生を含めて16名のご参加で大変な賑わいでした。古川先生も体力に大分衰えが見えましたが、元気に落語の2席をご披露いただきました。皆さん還暦を過ぎすでに2年。完全リタイアの人あれば、未だ現役で頑張っている人ありでしたが、この会では中学卒後46年の歳月を忘れさせる瞬間を味わいました。渡部誠応援団長の指揮の下での校歌斉唱と野ばらのドイツ語での合唱で解散し、二次会はカラオケボックスと元気は衰えず、たそがれの中、喧騒の新宿歌舞伎町に消えて行きました。来年は25名の参加者をノルマにしておりますので、皆様のご参加の程よろしくお願い申し上げます。（遠藤和男・記）



昭和40年卒ドイツ語クラス 獨新会

今年の我が会は、10月3日（土）《獨協祭開催初日》18：00より、国松先生と小平先生をお

迎えして、椿山荘つばきの間にて開催致しました。

今回は、残念なことに、校長を務められた恩師の篠原寛先生が8月13日に80歳で、また同朋である大木野信介君が4月17日に遠い世界へと旅立たれました。篠原先生は今年6月の同窓会懇親会で元気なお姿でいらしたのに…。1分間の黙祷と共に開会をすることは誠に悲しいことではありますが、参加者は皆各々の思いを胸にご冥福をお祈りしたと思います。

今回も幹事の手際が悪く、開催案内の通知が遅かったにも拘らず、16名の同朋が集まり、先生方と共に時を忘れる程の盛り上がりとなりました。参加者の近況報告と共に参加できなかった同朋の近況を交え、来年、獨協祭のある日に再会を約して、盛会のうちに散会致しました。（櫻田・記）



S49年卒 金有一先生クラス会

平成21年10月31日（土）日比谷ベルシーヌ

金有一先生をお迎えしてのクラス会も今回で32回目。体調不良、体重増加、白髪、髪の毛の量減少、老眼など年齢相応の笑える？話にも花が咲きました。しかし話の大半は高校時代、青春時代に戻り、楽しくあつという間の3時間半。二次会は隠れ家的小店のカクテルバーへ。今回、入院中のため常連の二人が参加できませんでした。元気になっての参加復活を信じています。（萩野・記）



昭和 52 年卒 清棲先生に感謝する会

清棲先生は我々が高 1 の時（1974 年）に赴任され、2008 年春をもって退職された。5 月 30 日、同期の天野太介君経営の新宿「トップス」で、先生がはじめて主管をされ、卒業を見送った学年として約 30 人が集まりお礼と激励の会を開いた。先生は同じ干支の戌年、一回り違い。やんちゃ坊主の獨協生と年若く貴公子然とした先生は不釣り合いだったかもしれない。生物部の合宿でも、採集の合間にアンノン族（懐かしい）の女性たちとちゃっかりお茶を飲んだりしていたのが先生には似合っていた。

還暦を過ぎられた今でも、くたびれの見える教え子の我々より若々しく、お元気なのが印象的だった。カメラにはまって野鳥の撮影が趣味になった教え子の作品に見入るご様子は目白の旧校舎教場そのまま。

記念品には 18 世紀・ワイマールで出版された博物図鑑の一部、彩色銅版画によるアポロウスバシロチョウが載った図版を差し上げた。300 年たっても鮮やかな翅の赤紋が先生の机辺の彩りになれば、われらの喜びこれに勝るものはない。

（松下・記）



昭和 60 年卒 3 年 5 組 クラス会

5 月 23 日土曜日に主管田村先生をお迎えしてクラス会を開催いたしました。十数年振りの再会とあって最初はぎこちない雰囲気もありました



が、すぐに懐かしい高校時代の関係に戻り、大いに盛り上がりました。その盛り上がりが災いして、主管の話を聞かず注意を受けた昔の高校生もいましたが、それも懐かしのひとコマです。来年もやりますのでぜひ御出席を。（幹事・記）

平成 18 年卒 志村 会

平成 18 年度卒業の二組クラス会が 3 月 15 日日曜日に池袋で開催。卒業以来初めてのクラス会は卒業生 17 名と担任の志村先生を加えての 18 名であった。就職活動を迎える者、学問に身を投じる者、酒と女に溺れるドンファン的生活を送る者と女性になった者はいなかったが、それぞれが人には言えない、あるいは言わない数多の苦勞・困難を乗り越え、様々な面で成長しているように感じられた。会自体の雰囲気は飲めや歌えやのお祭り騒ぎ。男子校の底力とエネルギーと熱意と若干の汗臭さに眩暈とノスタルジーと元気をもらった。青春時代のもっとも感じやすい時期を共に過ごした仲間と酒を飲み、思い出を語ること以上に幸せなことはないだろう。次回以降もっと参加者が増えることを願って。（吉川怜・記）



平成 21 年 松本歯科大学獨協会

去る平成 21 年 6 月 20 日（土）夜 西池袋・瓢池袋店にて 6 年ぶりに獨協会を開催いたしました。今回は、松本歯科大学 3 期から 22 期卒業の 11 名の先生方にご参加いただきました。懇親



会は、30 年ほど前松本で獨協会を発足した当時の写真や、獨協高校現役時代に目白や高田馬場で他校生と交流した際の懐かしい話で大変盛り上がり、2 次会も全員ご出席いただき、またの再会を誓って散会となりました。この会の開催にあたり、多くの諸先輩方・庶務の鹿野君他、ご協力いただいた皆様方に心から感謝いたします。(橋口・記)

ワンダーフォーゲル部 OB会総会

年 1 回を積み重ねて、早や 24 回目。ワンダーフォーゲル部 OB 会総会が 6 月 14 日、小石川後楽園・涵徳亭で開催されました。歴代顧問として飯島義信先生をお迎えし、部を創立した先輩から、さらには同窓のお客様あるいは会員の奥様の参加もあり、総勢 24 名でした。中野君 (s49 年卒) の司会により、活動報告、会計報告、会長・井上正巳氏 (s32 年卒) の続投を了承して、暫しの歓談後、恒例の赤シャツお披露目となりました。本年還暦を迎えた長瀬治君、本多純君 (いずれも s43 年卒) をはじめ、遅ればせながら、千野一郎氏 (s33 年卒)、川口昇司氏 (s34 年卒)、赤生東一郎氏 (s35 年卒) 等が赤シャツを羽織り、肩組みしての記念撮影には、参加者一同からの大きな拍手がありました。重ねた年輪を問わず、同じ大地を踏みしめて同じ飯を食んだ仲間としての感慨を共有していることもあり、その後の全員による現況報告では、懐かしい写真の回覧などもあり、大変盛り上がった総会でした。追記：9 月には、小諸・日新寮での親睦会もありました。

http://www31.ocn.ne.jp/~dokkyo_wv/
(常盤雪夫・記)



中学・高校野球部顧問 馬越右左司教諭 還暦を祝う会

平成 21 年 1 月 24 日 (土) に「椿山荘」の一室にて還暦を祝う会を開催いたしました。馬越先生がこれまで中学・高校両野球部の顧問としてご指

導された卒業生は約 480 名。卒業生全員の名前が刻まれた記念プレートが贈呈されました。会にはたくさんの卒業生や父母、そして現役の高校野球部の選手が集まる中、「教師冥利に尽きる」とのご挨拶があり、盛会となりました。(幹事・記)



獨球会 (高校野球部) による 長坂前監督の還暦祝い

平成 21 年 6 月 6 日 (土) に護国寺の「花の舞」にて長坂前監督の還暦のお祝いを行いました。長坂氏は昭和 51 年から約 20 年もの間、監督として選手の指導にご尽力された方です。民間にお勤めされながら任に当たられていたために、そのご指導は土日が中心でありました。「休日を含めてのご指導に改めて感謝したい」と OB それぞれが謝意を伝えました。最後は大塚警察署の前の路上で長坂氏を胴上げ。久しぶりに現役当時に戻ったような会となりました。(幹事・記)



柔道部 OB 会主催 萩野元祐先生 七段昇段を祝う会

柔道部顧問の萩野先生におかれましては、4 月 30 日七段に昇段されました。その功績を称え、8 月 29 日 (土) ホテルグランドパレス・牡丹の間において OB 会主催により「お祝い会」が盛大に開催されました。萩野先生の柔道に対する情熱は並々ならぬもので、今回のご昇段もその情熱と

日々精進されている賜物です。現役柔道部員にはその熱い思いが伝えられ、まさに文武両道立派な学生となり、卒業後も苦難に負けない懐の大きな人間に成長しております。頼もしい限りです。出席者全員から先生へ心からのお祝いの言葉が贈られ、これからの先生のご活躍と柔道部の発展を祈念して閉会となりました。(幹事・記)



私の近況

●今年で102歳、外出は全く出来ない状態です。内臓に異常なく元気に過ごしています。会誌等には目を通しています。**牧 祥三**(大13卒)

●元気に暮らしております。妻(90才)が昨年5月3日散歩中転倒し、左大腿部骨折入院後、目下近所の有料介護老人ホームに入院中につき独り暮らします。**田中 正名**(昭7卒)

●93才病弱ながら何とか暮らしています。

平山 辰雄(昭8卒)

●92才となりました。双子のひ孫達も4才となり、可愛い盛りです。100才まではと、健康に気を付けています。「独協通信」をなつかしく読んで居ります。

弓削 義邦(昭10卒)

●恙無く卒寿を過ごすことができました。

高橋 善三(昭11卒)

●われわれ獨協同級生、今でも年1回会合しています。僅か4、5人になりましたが…。

山川 勉(昭13卒)

●心臓の病気その他で、昨年末から入退院を繰り返し、まだ入院しております。**内田 恒道**(昭14卒)

●来年、早々米寿を迎える小生、気力は未だ壮年の気持ちで目下、アセオケ(中野区民交響楽団)で、ヴァイオリンを担当。秋の定演の練習に励む毎日です。(在学中は音楽部)**小澤 武彦**(昭14卒)

●米寿を迎えても晩酌は相変わらず日本酒2合。神尾君がまだ現役でクランクを診ているとのこと。感服しました。**駒木 実**(昭14卒)

●ドイツ語の勉強、ドイツ文学を文庫本で読んでいます。なるべく歩く様にしております。

高橋 芳和(昭16卒)

●85才になりました。腰が曲がって来ましたが、概ね元気に倅達の邪魔にならぬ程度に勤務しておりますが、旧軍関係の行事等に結構忙しく過ごしております。**倉谷 三男四郎**(昭16卒)

●長男は獨協医大の助教授で居ります。私は長女と2人で歯科を開業しております。校長先生によりしくお伝え下さい。**内田 東五**(昭17卒)

●白内障の手術をしたので目がハイビジョン並みになり本は読めるし、目に入るもの全て美しく見えるようになりよかったですと思っています。

永嶋 宏(昭17卒)

●宮田仁君が亡くなっていよいよ心淋しくなりました。老骨ながら中山道をぼつぼつ一人で歩いています。まもなく妻籠です。**高松 秀明**(昭17卒)

●「独協通信」を楽しく読んでいる。長年、東京大学の後輩が出来ない事は寂しい限り。巣鴨高の例もあり、学校レベルを上げる努力を母校に望みたい。**山下 英一**(昭18卒)

●一病息災で頑張ってます。但し単独で外出不可。**羽野 外志雄**(昭18卒)

●明治生命保険相互会社に35年勤務。定年となり現在は年金生活です。現在82才です。

風見 知雄(昭18卒)

●私は戦時中の卒業で、海軍の特攻隊の生き残り、復員後昭和40年に上京、母校を尋ねたが昔の校舎と面影がガラリと変わりましたが、やはり懐かしさは変わりませんでした。**谷野 龍夫**(昭18卒)

●大東亜戦争で終戦時グラマン戦闘機と戦い又少尉指揮の演習で傷病者になりましたが、仕事と治療の両方をやりぬき、その後会社勤務では清掃もやり元気に勤務し円満退職し今は図書館で本を読み楽しんでいます。**野末 茂俊**(昭18卒)

●豊島区に転居、再び獨協学協会中学校が真近に・・・青春時代が獨協と重なる。戦中、戦後と生きて80余年、今学び舎とその地を強く思う。

遠藤 昇(昭19卒)

●私の小説「ミュンヘン狂詩曲」2009年5月に改訂版(文芸社)が、紀伊国屋書店のお薦め図書になりました。19世紀半ばのドイツ3月革命頃の、日本にあまり紹介されていない、バイエルン王ルートヴィヒ1世のことなどを描いたものです。

田村 康三(昭19卒)

●私は東京大学東京天文台に在職しておりましたが、現在は国立天文台になっております。現在は無

私の近況

職です。

藤原 清 (昭 19 卒)

● 80 才になりました。小生は内科だけ(家内は小児科)やっています。

渡邊 勲 (昭 20 卒)

● 私は 80 才になりますが、志賀高原でどんな急斜面でも楽しく滑っております。同学年は毎年秋に楽しい同窓会を開いており最高に嬉しいです。

小林 正樹 (昭 20 卒)

● 毎日どうやらの状態です。諸兄のご健康を祈ります。

明石 鄰三郎 (昭 20 卒)

● 私は昭和 19 年 4 月に四修で進学したので獨協の卒業証書は貰っていません。現在は高年齢になったので産婦人科を引退し、専ら検診業務をやっています。

青井 保男 (昭 20 卒)

● 昨年秋の叙勲で教育、研究業績により瑞宝小授賞を受賞しました。

細貝 祐太郎 (昭 20 卒)

● 去年の誕生日を迎えて男の平均寿命を越え、何か義理を果たしたような感じ。後は人間裸で生まれたのだから裸で帰れば宜しいと先人の教えに従ってと・・・ここまでは思ってみたのですが。

桑原 和彦 (昭 20 卒)

● 通院加療中ですが、一応元気にしています。戦時中時代に軍事教練で荒川の河川敷を三八式歩兵銃を持って匍匐前進しました。現在はゴルフ場と化した河川敷を眺め感慨無量です。

志茂 昌幸 (昭 20 卒)

● 昨年 11 月小脳に脳梗塞を発症、約 100 日のリハビリの結果、日常生活には支障ありませんが、平衡感覚にやや失調が残し、遠出は杖を使っています。

青木 伸福 (昭 20 卒)

● 昭和 20 年卒の英語科の同期会、トロッコ会 34 回を 7 月 7 日に行ないます。我々も 80 才をこえ、出席者が減ってきました。連絡をとりあって続けたいと思っています。

石井 進 (昭 20 卒)

● 慈恵獨協がこの 5 月 9 日久しぶりに開催された。現在会員は 72 名おられる。獨協卒業が昭和 50 年代までは毎年数名おられる、私の昭和 20 年卒は 7 名もいたが、最近是非常に少なくなり、平成卒は現在 3 名となってしまった。かつてのように沢山の学生が来られることを望んでいる。

永野 允 (昭 20 卒)

● 同期生には音楽家の松浦豊明(クラシック)、秋満義孝(ジャズピアニスト)環境庁元事務次官の山崎圭、獨協中学・高等学校前校長の奥田千秋氏等、多士済々。私は 80 才(功無きを恥ず)健康だけが取り得。

福嶋 昌彦 (昭 22 卒)

● 会費も納めず何の貢献もしていませんが、目白台界限を思うと心がさわぎます。母校の発展を願っています。

橋本 徳朗 (昭 23 卒)

● 今年 75 歳お医者様となかよくするこの頃です。足腰弱ってきていますが、プールへ、又は近くの野山へ写真を撮りにと、頑張っています。

江田 豊 (昭 24 卒)

● 中卒後、新宿高に転校、大卒後、海運会社の陸上社員となり、海外勤務も経験、定年で退職。69 才まで何とか働きましたが、現在後期高齢者。時折、母校の周りを散歩しています。

浅野 祥三 (昭 24 卒)

● 中央区京橋で山好きの人達のために、小さな登山用具店「ジャンダルム」を営業しています。良い品を安くをモットーにしていますので、ご興味がありましたらご来店下さい。

多賀 秀世 (昭 24 卒)

● 健康の為週一回、水泳教室に通い四泳法をマスターしました。今は泳ぎを楽しみ乍ら、身障者の水泳トレーニングのサポートをしています。

井上 猛 (昭 26 卒)

● 歯科医業も車の運転も完全にリタイアしました。誠に寂しいです。戦後の激動の時代生徒会活動などを活発に行い、文芸誌「めじろ」に対抗して獨協新聞部を創部、発刊など目白の思い出は一杯あります。堀田・片岡・生松先生方や多くの立派な恩師にご指導を受けた事に感謝しています。

山本 啓介 (昭 27 卒)

● 50 年楽しんできたタバコをやめ、毎日 500ml の缶ビールを楽しんでいます。

赤堀 光男 (昭 28 卒)

● 慢性すい炎で苦しんでいます。すい炎を専門にしている先生をお知らせ下さい。

長畑 茂 (昭 30 卒)

● 平成 20 年 11 月に、昭和 30 年卒有志の森田孝君(幹事)・坂本直哉君・長畑茂君・宮川康行君と私で、箱根一泊でささやかな同窓会をして来ました。皆様とても元気です。

梅田 博 (昭 30 卒)

● 不況の最中、いまだに現役で苦勞して居ります。獨協通信を通じて広がる思い出が唯一の息抜きです。

奥水 善雄 (昭 31 卒)

● 21 年 4 月 1 日銀座獨協クラブでクラス会を開催。物故者が多くなりました。残念です。

小倉 宗武 (昭 31 卒)

● 朝起希望、夕眠感謝、常時喜悦、不断祈祷、万事感謝。何事もほどほどに生活しています。健康状態は良好です。

土屋 興二 (昭 33 卒)

● 新聞社在社中は主にスポーツを取材していました。三度の五輪取材、長嶋引退試合など、思い出がよみがえります。娘の主人も獨協です。

後藤 昌弘 (昭 33 卒)

● 週一日は息子に診療をゆだね、あと 6 日間は分婉も取り扱って頑張っています。趣味の風景写真も楽しんでいます。

田中 雅治 (昭 33 卒)

私の近況

●本年度が現役最後の年です。定年後の22年度の総会、懇親会には是非出席したいと思います。

中山 晃 (昭33卒)

●川崎市医師会には獨協卒業生が2人おり、他に川崎市小児科医会には4人おり、卒業大学が異っても皆仲良く幹事会に出てくれている。

竹本 桂一 (昭34卒)

●あと2年位は仕事をして70歳からのんびりやりたいと思っています。

金子 宏 (昭34卒)

●公認会計士の現役で次男とともに監査業務に従事しています。会計制度の国際化の伴い、超多忙ですが元気でやっております。

園田 光基 (昭34卒)

●古文書にはまって10年、最近は錦絵から和綴本まで手を出しています。最近読んで面白かったのは『伊達叢秘録』でした。

児玉 親夫 (昭34卒)

●リタイア後、毎日が日曜日の生活もそれなりにリズムをつかみ、獨協3人組と毎週火曜日に逢っていますが、もう半世紀強の長い友人生活もその原動力になっています。

歌川 信也 (昭35卒)

●来年は高校卒業50年。同期会でもやりたいものですね。

朱牟田 恒雄 (昭35卒)

●第二の人生を送っています。ボランティアと町会役員で時間を使っています。

深谷 菊夫 (昭35卒)

●6月30日で定年退職します。大卒後、約45年のサラリーマン生活も終わりです。その後の生活は未定ですがのんびり健康に留意する予定です。

吉田 浩 (昭35卒)

●明治大学のボクシング部の監督やめました。18年間でした。

鈴木 義三郎 (昭35卒)

●介護保険制度スタートの翌年から訪問介護事業所を開設し、高齢者の問題に取り組んでいます。介護が必要な人が増える一方、その担い手となる人材(ホームヘルパー)不足が大きな課題です。

花岡 紀夫 (昭35卒)

●三井観光開発(株)は退任し、現在は大学非常勤講師をしています。

石川 正弘 (昭36卒)

●病院は4月から後継者が来て、時間のゆとりが出来旅行してます。

斎藤 正興 (昭36卒)

●孫も4人となり、幸せな生活をしております。6月1日よりの50年ぶりの薬事法改正の準備で大変です。

保坂 直孝 (昭37卒)

●リタイアしてすでに4年。ヘラブナ釣り、アユ、黒鯛、等の釣りとふぐ料理他季節の魚を市場より仕入れ食す毎日です。

五前 國明 (昭38卒)

●来年65才になるのでクラス会を開きたいと思っています。

佐藤 忠一 (昭39卒)

●神田先生の御逝去に深く哀悼の意を表します。母校に頼んでも個人情報とやらで恩師の所在も把

めず音信不通のままの御別れとなり誠に残念です。狡っ辛い世相を恨みます。

宇都宮 繁明 (昭39卒)

●御無沙汰しております。4月から自宅で、はやしクリニックを開業、開業医1年生になりました。初心にかえて頑張ります。

林 永信 (昭40卒)

●英語科教師として39年間千葉県立高校に奉職してきましたが、今年3月、無事退職しました。現在、身辺整理をしつつ新たなライフ・スタイルを模索中です。

沖田 正宏 (昭40卒)

●生まれてからまだ、行ったことのない県、観光地があることに気が付きました。何年かかるか分かりませんが、一昨年から国内巡りを家族でしています。

吉川 秀昌 (昭40卒)

●日本の救いのため牧師になりました。ドイツで受けた恵みを日本の皆様に伝えています。日曜日には多摩福音センターへお立ち寄り下さい。

綾部 昌明 (昭41卒)

●61才となり、同窓生が皆元気でやっているか気になる年令となりました。開業も31年が過ぎました。

武田 俊一 (昭41卒)

●現在61才、派遣社員として東芝キャリアに勤務しております。

塚本 啓喜 (昭41卒)

●昭41年卒も還暦を過ぎました。孫はいませんが老境にさまよっています。

長村 洋 (昭41卒)

●仕事から引退する時期がいよいよ近づいた感じです。旨く仕事を終えることを考え始めました。

島田 英資 (昭41卒)

●平成21年3月末をもって定年退職しました。4月より週3日初任者指導教員として勤務しています。

熱海 敏行 (昭42卒)

●週末はテニス、平日はジムにてストレッチ、健康には注意し仕事も不況の折、社員も一丸となって荒波を越えるべく頑張っております。

巢山 良一 (昭42卒)

●ワングルOB会の諸兄系と低山ハイクやスキーを楽しんでいます。秋には小諸・日新寮にて2大親睦会もあります。

長瀬 治 (昭43卒)

●本年6月にて定年退職になります。1年半前に脳出血にて今は右半身マヒのリハビリの毎日です。

瀬尾 勇 (昭43卒)

●ゴルフ場内のレストランをしています。ゴルフをされる方はご連絡を下さい。

池田 章 (昭44卒)

●生まれ育った地元浅草仲見世で、甘味サンドイッチの店を営業致しております。近くにお越しの折にはお立ち寄り下さい。

金子 繁 (昭44卒)

●S45・46・47年卒のバスケット部のOB会を渋谷の辰巳でやりました。

河原 一博 (昭46卒)

●中学の卒業証書は、校長・天野貞祐先生であり、

頭書に文学博士と書いてあることが誇りです。額縁に入れ、壁に飾ってあります。 **難波 潤** (昭 47 卒)

●今、私は神奈川県で神奈川摂食・嚥下リハビリテーション研究会の世話人をしております。NST (栄養サポートチーム) と共に医療にかかわる方のご協力をお願い致します。 **岩崎 克夫** (昭 48 卒)

●長野オリンピックにも出場した実業団選手をコーチとして迎え、週2回ホッケーを楽しんでおります。 **大島 康成** (昭 48 卒)

●実家で整形外科クリニックを開業して 12 年目です。獨協の先生や生徒さんもよくこられますよ。 **神田 良介** (昭 49 卒)

●在学中は一般家庭でしたが、大正大学に進み真言宗の僧侶となり、寺院の養子に入りました為、名前がすっかり変わりました。旧名: 佐藤 成男 **中村 元信** (昭 49 卒)

●平成 18 年度から岩手県医師会常任理事となり、地域医療を担当しております。平成 20 年に日本老人保健施設協会より、会長表彰を受けました。 **木村 宗孝** (昭 50 卒)

●永野允慈恵医大名誉教授が、永年の国際医学交流への多大な貢献に対して、シーボルト記念メダルを受賞されました。慈恵医大獨協会が先生のお祝いを共に喜び合い、久しぶりの盛会にて開催されました (平成 21 年 5 月 9 日)。 **稲葉 敏** (昭 50 卒)

●昨年、PTA で講演させていただいた時、木原 PTA 会長からいただいた「獨協ネームフォルダ」を首からかけて毎日診療しています。荒川区には卒業生が多く、患者さんから「先生も獨協なんですか!」と言われます。 **谷田貝 茂雄** (昭 51 卒)

●獨協中高・大学と学び、卒業の春開校した獨協埼玉高校に 4 年間奉職後、鹿児島実業高校に勤務。「鹿実」の事務長 13 年目になります。恩師新宮譲治先生には、日々感謝の気持ちです。 **大竹 啓之** (昭 51 卒)

●獨協出身医師の集まり「獨協ドクターズクラブ」会長に就任いたしました。御協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。 **伊藤 公一** (昭 51 卒)

●麻酔科・ペインクリニックを松戸市にて開業し、2 年目を迎えます。元気にやっております。母校獨協中学・高等学校並びに、獨協ドクターズクラブのさらなる発展を望んでおります。 **立原 弘章** (昭 52 卒)

●中学は化学の小林先生、高 1 の時は生物の清棲先生、そして高 2、高 3 と体育の倉地先生にお世話になりました。特に倉地先生は修学旅行の時、手を使わずにハーモニカを吹いたのを今でも覚えております。そんな先生が他界された事は誠に残念でなりません。 **米山 康二** (昭 52 卒)

●六本木ビルノースタワー B 1 の支那そば藤丸の店長です。 **山岡 隆一郎** (昭 52 卒)

●昭和 59 年卒で近隣の勤務医、開業医の集まりを、年に 1 回開催し、病診連携の輪を広げています。 **桃木 茂** (昭 53 卒)

●この 4 月より息子も獨協となりました。 **杉浦 宏詩** (昭 54 卒)

●平成 21 年 11 月から、東京医大の救急医学講座に准教授として赴任する予定です。防衛医大には平成 5 年から 16 年強在籍しましたが、あっという間でした。 **金子 直之** (昭 54 卒)

●選挙直前で多忙です。無事に当選できたら銀座の池澤君のお店でも行こうかと思います。 **田中 良** (昭 54 卒)

●世に建築作品を創出すること 200 を超えました。これを機に平成 19 年、我がアトリエを開き、日夜崇高な芸術としての建築を、一本の線からデザインし続けております。 **加藤 貴之** (昭 55 卒)

●病院に県道があたって移転となります。次の勝負のため、25kg やせて、体力増進・知力増強にて獨協生らしく堂々と前進します。 **土屋 寛芳** (昭 55 卒)

●弟が他界し、自分もそんな歳になったのかと感じています。私が学生の頃は獨協は医学部進学校でしたが、今は本当に見る影もなく、他校に追い抜かれてしまいました。もう少し考えてもらいたいものです。 **湯澤 聡** (昭 56 卒)

●今年の 4 月から、実家で父と机を並べて診察しています。 **鈴木 英彦** (昭 57 卒)

●卒業して 27 年、一社会人として生活しております。楽しかった、素晴らしい中学・高校時代の思い出を、今尚感謝しております。 **嵯峨 和彦** (昭 58 卒)

●息子が現在中学に在学中で、親子 2 代で獨協にお世話になっております。自分が中学・高校時代に教えていただいた先生が、まだ何人かいらっしゃり、とても素晴らしいことだと思っております。 **石井 宏幸** (昭 58 卒)

●東京医大にここ数年獨協の後輩が入学して来ないので淋しいです。頑張ってください。 **梶原 直央** (昭 59 卒)

●平成 18 年に地元の坂戸市で開業しました。 **吉松 栄彦** (昭 59 卒)

●先日、診察室に学生服で受診した男子がいました。すぐにその学生服が母校のものと分かり、診察そっちのけで母校の話をしてしまいました。 **加藤 博一** (昭 59 卒)

●仕事に、様々な海外旅行に、出身大学の役員会にと、充実した日々を送っています。威風堂々とした獨協学園、懐かしいです。 **笛木 忠昭** (昭 61 卒)

私の近況

●地元の足立区で調剤薬局を経営しています。在宅診養中の患者さんにお薬を届けるべく、日々自転車で走りまわっております。**福澄 重泰**(昭61卒)

●平成18年12月より、ロンドン医療センターに勤務しています。**齋木 実**(平元卒)

●目黒区にて自民党の区議会議員・最年少でがんばっています。地元を廻っていると、同窓生の方々が多い事がわかり、励まされており感謝です。

小野瀬 康裕(平2卒)

●卒業してから、もう16年も経つんですね。現在2児の父です。家業を継いで、代表取締役となりました。米澤先生のことが懐かしいです。神田先生のご冥福をお祈りします。**御田 博英**(平5卒)

●昨年イギリススポーツマス大学大学院に留学中です。**本條 寛人**(平7卒)

●現在、仕事は大変ですが2歳になる女の子と来年1月に産まれる予定の子供を楽しみに頑張っております。**久保田 伊哉**(平7卒)

●最近、獨協の友達が結婚し始めました。

橋本 大和(平10卒)

●旭川医科大学で2回目の大学生活を満喫しています。

小祝 信広(平12卒)

●今年4月に新しい職場に移りました。中学・高校・大学・講師と14年間過ごしてきた目白から卒業しました。また来年度から平成13年卒の幹事になりました。宜しくお願いします。**宇津木 保則**(平13卒)

●今年度より初めて担任になりました。日々充実しています。

森 文彦(平13卒)

●この6月から3週間、教育実習で獨協にお世話になっています。

橋本 大智(平13卒)

●早稲田理工院を卒業してから、やりたかった石油資源の技術者として、秋田へ赴任しました。初の地方暮らしです。乞御期待。

片岡 翔(平14卒)

●獨大卒業後、親元を離れ何の身寄りも無い富山の地で、私立高校の教員として武者修行している毎日です。

鈴木 雄大(平14卒)

●第102回(平21年)歯科医師国家試験に合格し、

4月より母校の日本歯科大学・新潟歯学付属歯科病院で研修医として務めております。

竜 佑宗(平14卒)

●船舶の機関士として世界中を回っています。7月から自動車船LYRA LEADERに乗船します。

長谷川 裕(平15卒)

●2010年4月からバンダイで働くことになりました。おもちゃを作り、絵本を描き、忙しく充実した日を積み重ねようと思います。

松浪 敢(平16卒)

●大学5年になり、登院実習が始まりました。失敗の連続ですが、毎日充実していてとても勉強になります。

河合 貴俊(平17卒)

●卒業して早4年、大学生活も残り1年を切りました。いまは、有機材料化学&光機能化学の研究室に所属し、卒論研究に向け、実験・実験の毎日です。

小岩 啓明(平18卒)

●東邦大学医学部医学科に在学しております。

平野 庸介(平18卒)

●私立武蔵高校・中学校の教員補助として働く傍ら、夜は学生として日々勉学に励んでおります。

金子 勝年(平19卒)

●現在明治大学独文3年、中三で始めた独語も7年目になりました。来年教育実習で独語を教える母校へ帰ります。今から楽しみです。

高井 隆介(平19卒)

●一浪の末、念願の筑波大学に入学し、充実した毎日を過ごしています。楽器を続けたいと思い管弦楽団に入団し、勉強と音楽にと楽しい日々です。

小池 健人(平20卒)

●大学ではコミュニケーション論や広告論を英語を通して学び、また美術部に所属し毎週作品製作に勤しんでおります。

多々良 俊介(平20卒)

●アメリカンフットボール部で、毎日授業と部活で忙しくしています。

松原 祐之介(平20卒)

●今年希望していた法大の史学科に入学しました。自分のやりたい事がありすぎて困っております。

竹森 真直(平21卒)

編集後記

本号より「獨協通信」はページ数はそのままですが、紙面の大きさをB5判に、またカラー印刷となりました。いかがでしょうか。ご感想などがあれば事務局へご一報ください。在校生の演劇部の活躍ぶりはいかがでしたか。さまざまな場面での母校の活躍ぶりを今後もお伝えしたいと考えています。学園祭に同窓会の企画を展示し始めて2年目となりました。同窓生の来場は少ないものの、

本校受験を考えておられる保護者や子弟の方たちが多く来場され、盛況でした。

同窓生名簿の取り扱いについて一定のルールを決めましたが、獨協通信の送付に欠かせない情報ですので変更などがあれば、ご連絡ください。残念ながらあて先不明で戻ってくるものが多数あります。また、ご友人の消息などについてもお知らせいただければと考えています。(竹文)